

## 時を戻そう

長崎大学環境科学部

村中 瑠莉

「時を戻そう」

これはお笑い芸人ペコパの松陰寺さんの決め台詞である。

「時を戻そう」と言って時間を巻き戻せたらいいのに。と思うことがよくある。

実は私たちの力で時を戻すことができる時計がある。その名は終末時計だ。

終末時計は、地球の終末を「午前0時」として残り時間を示したものである。

2023年1月、終末時計は残り90秒となった。

人類は残り90秒から時を戻す事ができるのだろうか。

私は時を戻せると確信している。

なぜなら核のある世界が当たり前になっていないからだ。

核拡散防止条約に加盟して核を持っていない国が多く存在する。

しかし、世界には2023年6月現在12,520発の核兵器が存在している。核兵器を保持している国の人々は核兵器が他の爆弾と違うことを理解しているのだろうか。核兵器の恐ろしさを知っているのだろうか。

核兵器の恐ろしさ、原爆の恐ろしさを実感してもらうために広島平和記念資料館と長崎原爆資料館に訪れてほしい。展示を見た後では核兵器に対する思いは変わるであろう。

私は、被爆地である広島と長崎で原爆について学んできた。今回は衝撃を受けたこと、感じたことを紹介する。

広島の中学校に通い、広島の前爆について学んだ。

高校の授業で8月6日原爆投下後に広島で撮影された写真をAIでカラー化したものを見た。その中で橋の上でやけどを負った人々が立ち尽くしている写真がいまだに脳裏から離れない。モノクロ写真では遠い昔の事のように感じていたが、カラーで見ると一気に現実味を帯び、震えが止まらなかった。

平和記念資料館で印象に残っている展示がある。それは、被爆者一人一人の写真と遺品、

生涯を綴った展示である。私はそれまで原爆の悲惨さを死亡者数で感じていた。しかし、その展示で当たり前の事ではあるが、亡くなった一人一人に個性があり夢がありそして家族がいて友人がいて、それぞれの生活の途中で亡くなったのだと気づかされた。三輪車、黒焦げの制服、その一瞬の前は日常があったことを想起させる。原爆に対する恐怖が大きくなり、胸が締め付けられた。

大学進学で長崎をはじめて訪れた。

原爆資料館に行き長崎の原爆について学んだ。

恥ずかしながらヒロシマについて多く学んできたためナガサキのことは無知であった。浦上天主堂のがれきや天使像を見て今いる長崎の町で起こった出来事なのだと痛感した。

テレビ局でアルバイトをしており被爆者の方のお話を聞く機会が度々あった。

被爆者の方々、そして長崎で暮らす人々からナガサキを最後の被爆地へという強い思いを持っていると感じた。今もなお「黒い雨」訴訟は続いており被爆者と認められない人々、後遺症に悩む人々などあれから77年たっても苦しんでいるということも知った。

生き残った人々もこんなにも長い間苦しみ続けていると原子爆弾を落としたアメリカ兵は考えていなかっただろう。想像を絶する被害が及ぶことも核の恐ろしさであると思う。

私はこのように原爆について沢山学ぶ機会があった。この学びをまずは日本国内へさらに世界へ伝えることが宿命であると感じている。

そして、胸を張って核廃絶を謳い、核は悪だと胸を張って伝えたい。

核がない世界を実現するために、私ができることを実践していきたい。

日々状況が変化するウクライナとロシアの戦争。

核戦力を誇示し続けているロシア。もし核戦争となったらどうなるだろうか。

複数国が核を保有している今の状況で核兵器を投下する。

多くの命を一瞬で奪う。

核兵器を投下し返す。

多くの命を一瞬で奪う。

繰り返す。

核は人類を終末に追い込むものである。

身近な人の笑顔を思い浮かべて答えてほしい。

あなたは核か命どちらを大切にしますか？守りますか？

命を大切にする。と皆が答えるだけでいい。

核は捨て命を大切にしよう。

そして皆で「時を戻そう」